

富山県立呉羽高等学校



同窓会報



第41号-2026-8-9

呉羽高校の未来のために

同窓会長 伊勢達哉



私達同窓会は、一九八六年（昭和六一年）に、第一期生の卒業と同時に発足し、今年で四十一年目となります。そして、来たるべき本校の更なる大きな節目の創立五十周年に向けて、同窓会として益々熟成をしていかなければなりません。少

子化により、富山県は「新時代とやまハイスクール構想」に基づき、二〇三八年度までに県立高校を三十四校から二十校程度に再編する計画を推進しています。構想の目玉として富山市内に一学年四八〇人規模の大規模校を一新設することが決定しており、現在は候補地の絞り込みや既存施設の活用に向けた検討が進められています。現在の情勢を鑑みると、これからは、周年をお祝い出来るといふ事は当たり前の事ではなく、真に価値のあることになってくると思います。本校は創立から多くの方々によって支えられて発展を遂げて来ました。そして、その中でも、一万名の卒業生は生涯同窓生であり、本校に生涯関わっていく一番強い縁の下の方力持ちです。本校が未来永劫に存続する為には、同窓会の大きな力が必要不可欠です。何よりも同窓生は、良き伝統と文化を兼ね備えている、呉羽高校の卒業生ということが自信と誇りであり、そのことが自分自身の活力の源となっています。同窓会の原動力は「呉羽高校に対する想い」です。同窓会としての縦軸の絆、同期生としての横軸の絆をクロスさせながら、更に同窓会組織を発展させることが本校の未来に最大限寄与することだと思います。

同窓会の総会は毎年八月に開催となります。今後もこの同窓会総会や会報をご活用いただき、同窓生同士の交流が深まり、母校へ皆様の思いが結集出来れば幸いです。これからも魅力ある同窓会と成るべく、皆様と共に活発な組織作りに邁進していきたいと思ひます。どうぞ宜しくお願い申し上げます。

「新時代とやまハイスクール構想」の行方

校長 山本俊之



今年の七月、マスクミで本校のことが取り上げられました。県が計画している「新時代とやまハイスクール構想」で、二〇三八年度頃に開設を予定している一学年四八〇人の大規模校の候補地に本校がなっているということでした。

「新時代とやまハイスクール構想」は、今後十数年をかけて三段階で県内の全日制県立高校三十四校を二十校にするという全校が対象の再構築構想です。予測困難な時代を生き抜く人材の育成を基本目標に掲げ、また今後予想される生徒の急減に対応するため、県立高校全体のあり方を根本的に見直そうという取り組みです。

だから仮に本校が大規模校とならなかったとしても、この構想と無関係ではいられなかったはずで、同窓生の皆さんには大規模校になることによって、これまで培ってきた文化の薫り高い本校の良さが損なわれるのではないかと心配される方もおられると思います。しかし、その文化の土台となる音楽コースは、長年定員割れの状況が続いています。それならば、本校がこれまで培ってきた伝統を生かしつつ、より魅力ある高校となる絶好の好機と捉えてはどうでしょうか。

「新時代とやまハイスクール構想」では、大規模校の学校像として「主体性を育むMY時間割」、「多くの仲間との出会い」、「充実した部活動と学校行事」、「多様な学びに応える新校舎」を挙げています。そこには夢のある学校像が描かれています。デメリツトも含めて、大規模校、さらには構想そのものの行方を慎重に見極める必要を感じています。

本校が今後どのような新しい歴史を刻んでいくかは、富山県の高校教育全体のあり方に関わる大きな課題です。

役員からのメッセージ



青春の思い出の

評価は自分次第

29期生 山田 浩平

呉羽高校を卒業してから十年以上経過しましたが、青春の日々は、今もはつきりと大切な思い出として残っています。

特に部活動は、自分に色々なことを教えてくれました。僕は放送演劇部に所属していましたが、学校へは部活動に取り組むため、通っていたと思うぐらい忙しかったのを覚えています。放送と同時に演劇の大会のため、土日はほとんど部活動に費やし、泊まり込みも経験しました。先生にはいつも怒られてばかりで、部員同士の喧嘩も良くあり辛い出来事も記憶しています。

ただし、それ以上に楽しかったのも事実であり自分で行動することの大切さを学び、仲間と相談し合い作品を作りあげることが、今の仕事など社会生活にも活かされています。また現在でも演劇活動を趣味ですが取り組んでおり、仕事と家庭と趣味ととても充実した日々を送っています。

長い人生の中のわずかな高校生活ですが、多感な時期であり苦しいこと、辛いことも少なくありません。しかし、今後の人生に繋がる学びの時と考えれば、一生に残る貴重な経験になると思います。

恩師からのメッセージ



楽しむということ

高嶋 和彦

呉羽高校では、二年間という短い勤務でしたが、皆さんのおかげで楽しい思い出をたくさん作ることができました。特に、心に残っているのが体育の授業です。一緒に身体を動かし、笑い、たまに雑談し、私にとつてかけがえのない時間となりました。

さて、今年二月に開催された、ミラノ コルテイナ2026冬季オリンピックで、日本選手団は、金メダル24個、銀メダル7個、銅メダル12個と、冬季史上最多の成績を収めました。私が、その成績以上に心に残ったことは、選手たちが自然に発した「楽しむ」という言葉でした。

競技人生のすべてをかけて戦い抜いた選手たちの「楽しむ」という言葉には、今までの葛藤や挫折、積み重ねてきた努力感、好きな競技に打ち込むことができる幸福感、支えてくれた仲間への感謝、競技が終わった直後に新たな目標に挑戦する気迫など、様々な気持ちが「楽しむ」という言葉に込められていました。

皆さんは、呉羽高校を卒業し、新しい環境で頑張っていることと思います。苦労や悔しさ、停滞することがあっても、楽しむということを忘れないでください。楽しむことは最強です。



心豊かに人生を紡ぐ

團 麻三子

呉羽高校での二年間、生徒たちが目の前のことに真摯に向き合う姿や、他者への細やかな心配りを忘れない優しさに深く心を動かされました。苦手な学習から逃げることなく、誠実に取り組んでいたひたむきな姿勢は、今も私の大切な記憶です。

私が愛読する作家の津村記久子さんは、日々の地道な営みややさやかな心の揺らぎを、かけがえのない個人の「物語」として丁寧に紡ぎ出します。様々な個性が集う呉羽高校で、皆さんが日々の生活を丁寧に営みながら培ったその誠実な姿勢は、新しい環境の中でさらに磨かれ、これからの日々を彩り、人生を豊かに過ごすための確かな力となるはずです。

世代を超えて多くの卒業生が紡いできた伝統と絆は、呉羽高校の大きな財産です。同窓会の益々のご発展と、会員の皆様がそれぞれの場所での豊かな人生を過ごされることを心より願っております。一步一步を愛おしみ、素敵な大人として歩み続ける皆さんの未来を、これからもずっと応援しております。





呉羽高校に思うこと

村田 澄

呉羽高校には三年間勤務させていただきました。着任したときにチャイムの音が「野ばら」のメロディーであることをとても新鮮に感じました。令和7年の夏、学校のチャイムに係るプロگرامユニットが故障しました。校歌にもある「野ばら」の鐘の音を絶やすことはできないと、事務担当者が設置業者と何度も打ち合わせをしてくださったことを思い出します。

風もさやかなめひの野に響く「野ばら」の鐘の音は、呉羽高校で過ごした日々を象徴する大切な記憶として、卒業生の皆さんの心に今も残っていることでしょう。それぞれの場所で新たな挑戦を重ねながら、野ばらのメロディーを聞いた時、それぞれが呉羽高校で過ごした日々の記憶を鮮やかに思い出すことと思います。母校で育んだ誇りと絆を胸に、皆さんがさらに豊かな人生を築かれることを心より願っています。

また、呉羽高校がますます発展されることを心よりお祈り申し上げます。



挑戦

喜入 大地

私は、呉羽高校で5年間勤務させて頂きました。その中で、最大の挑戦は3年音楽コースの担任です。私の学生人生で、通知表に唯一Cの評価がついたことがあります。それは、音楽です。そう、私の苦手教科は音楽です。そして音楽にも嫌われていると思っていました。しかし、音楽コースの担任をしていく中で、究める過程がスポーツに似ていることに気が付いたり、音楽をしている人たちの人間性の豊かさに触れたりすることで音楽の魅力を感じるようになりました。この経験から、苦手だと思い込んでいたことにも魅力があった。それに気が付けることの素晴らしい経験を感じることができました。そんな素晴らしい経験をさせてくれた呉羽高校に、大感謝するとともに、今後ますますの発展をお祈りしております。



どうせなら 積極的なほうへ

釣谷 英伸

新規採用から5年間を呉羽高校で勤務させていただきました。毎朝聞こえてくる楽器の音色を聞き、今日も一日頑張ろうと日々楽しく学校生活を送っていたことが昨日のように思い出されます。

私が日ごろ大切にしているのは、「どうせなら積極的なほうへ」という考え方です。皆さんも日常生活を送る中で、やりたくないけどやらなければいけないことがたくさんあると思います。その際に、「ただ時間がすぎればいいや」という気持ちで取り組む場合と、「どうせやるなら一つでも学びのあるものにしよう」という気持ちで取り組む場合とでは少し先の未来でとても大きな差になってくるのではないかと思います。長い人生、日々の積み重ねが未来の自分を作ってくれると信じて、皆さんも積極的な考え方で努力していただきたいと思います。私も皆さんに負けないように日々実りある一日を過ごしていきたいと思っています。呉羽高校同窓会の益々のご発展と皆様のご多幸をお祈りいたしております。



会員の近況報告



大学生になって

廣富智太郎

私は呉羽高校を卒業し、四月から京都の私立大学に進学しました。知り合いも限られていて、新しい地での新しい生活に大きな不安を感じていましたが、ありがたいことに友達が徐々にできていき、今では楽しく安定した生活を送れています。また、生活が安定してきて、今では新しい目標ができ、友達と共に、留学に向けて英語の勉強を頑張っています。

さて、私が大学生になって皆さんに伝えたいことは「自分で選んだ選択なら、最後までやり切ってほしい。」ということです。私は第一志望の大学に落ちて、私立大学に進学するか、浪人するかを選択しなければなりません。私は進学する道を選びました。最初は選択が合っているか不安になりましたが今ではたくさんの仲間に出まれ、目標に向けて切磋琢磨しあうことができています。選択が正解かどうかは自分の行動次第なので自分を信じてぜひ前に進んでください。

最後に、これからは呉羽高校で学んだことを生かして、自分の進みたい道に向かって頑張ってください。



大学生になってから

板 亮太

私は昨年度、呉羽高校を卒業し、今年四月から富山県立大学情報工学部情報システム工学科に通っています。大学には県外からの学生も多く、新しくできた友人とそれぞれの出身地について話す機会がよくあります。また、高校とは異なり、一コマ九十分の講義を一日に四〜五コマ受講しています。サークル活動では他学年との交流が盛んで、同じ学年でも異なる学部の学生と活動するため、多くの人と出会うことができます。

授業では、基礎英語や物理、数学に加え、大学で初めて学ぶ「物理実験」にも取り組み、専門的な知識や実験技術を身に付けています。

大学生になり、レポートなどの課題が増えた一方で、アルバイトや友人との時間も充実し、毎日忙しくも楽しく過ごしています。大学は知識だけでなく、人との関わりを通して大きく成長できる場だと感じています。これからも一日一日を大切に、多くのことを学び、充実した大学生生活を送りたいと思います。そして、将来に役立つ力を着実に身に付けていきたいです。



教育実習を終えて



三浦 彩愛

2週間の教育実習を通して、授業づくりの難しさと教師という仕事の責任の大きさを学びました。大学でも模擬授業を行ってきましたが、実際に生徒を前にした授業では、生徒の反応を見ながら発問や説明を工夫する必要がある、教師の仕事の奥深さを実感しました。また、公共科の授業を9時間担当し、研究授業では身体をテーマに死刑制度について考えるグループワークを実施しました。生徒同士が主体的に意見交換を行う姿から、対話的な学びの大切さを学ぶことができました。

授業だけでなく、清掃活動や体育大会の練習などを通して生徒と関わる中で、多くの生徒が悩みや進路について話してくれました。生徒に寄り添いながら話を聞くことの大切さを実感するとともに、生徒との信頼関係の重要性を学びました。最終日にいただいた色紙は私にとって大切な宝物です。教育実習で得た経験と学びを今後の人生に生かしていきたいと思います。ご指導いただいた先生方、生徒の皆さんに心より感謝申し上げます。



佐賀 美紅

私はこの度母校で教育実習を行い、教員という仕事の魅

力と責任の大きさを改めて実感しました。実習前は授業をわかりやすく行うことばかりに意識が向いていましたが、実際には生徒一人ひとりと信頼関係を築き、よく理解することが授業の土台になることを学びました。生徒との日常的な会話や関わりを積み重ねることで授業の理解度を把握しやすくなり、より効果的な指導につながりました。実習期間中は、先生方から授業作りや学級運営について多くのご指導をいただきました。特に、生徒の主體的な学びを引き出すための発問や理解を深めるための工夫を多く学びました。授業後に生徒から「分かりやすかった」と声をかけてもらえた時は大きな喜びとやりがいを感じました。一方で、自分の説明力や授業運営にはまだ多くの課題があることも実感しました。今回の実習を通して得た学びを今後の自己成長に繋げていきたいと思っています。最後になりましたが、温かくご指導してくださった先生方、そして実習を支えてくれた生徒の皆さんに心より感謝申し上げます。



鈴木 心彩

2週間の教育実習を通して、教師という仕事のやりがいと難しさを学ぶことができました。実習当初は、自分がうまく授業を進めることばかりを意識していました。しかし、実習を重ねる中で、本当に大切なのは自分が上手に説明できたのではなく、生徒に内容が伝わり、理解につながったかどうかであると気付きました。授業では、答えをすぐに求めるのではなく、設問の意味や、なぜこのような表

になるのかについて問いかけることで、生徒自身が考えながら答えにたどり着けるよう支援することの重要性を学びました。また、生徒の反応を見ながら発問や例を交えながらの説明を工夫すること、生徒との関わりを通して、信頼関係を築くことの大切さも学びました。今回の教育実習で得た経験は、私にとって大きな財産となりました。ご指導くださった先生方や温かく接してくれた生徒の皆さんへの感謝を忘れず、今後の大学生活や将来に生かしていきたいと思っています。



守田 大鳳

このたび、母校の呉羽高校にて三週間の教育実習をさせていただきました。生徒として通っていた頃は気付かなかった先生方のご苦労や工夫を、実際に教員の立場から学ぶことができ、大変貴重な経験となりました。

私は音楽科の実習生として、ソルフェージュや音楽Iの授業を担当しました。授業づくりや指導案作成を通して、生徒に分かりやすく伝えることの難しさを実感しましたが、生徒の皆さんが真剣に取り組む、理解を深めていく姿を見ることができたことは大きな喜びでした。また、研究授業では多くの課題も見つかり、教師として成長するための貴重な学びとなりました。

さらに、体育大会や演奏会の運営補助などにも関わらせていただきました。授業とは異なる場面で活躍する生徒の姿を見て、学校行事の意義や母校の魅力を改めて感じることができました。

三週間という短い期間ではありましたが、多くの学びと出会いに恵まれました。ご指導いただいた先生方、温かく接してくださった生徒の皆さんに心より感謝申し上げます。この経験を今後の学びに生かし、より良い教員を目指して努力してまいります。



垣内美央梨

このたび母校で三週間の教育実習を行いました。実習では音楽科の授業を担当し、授業づくりや生徒との関わりを通して、教員という仕事の責任の重さややりがいを実感しました。授業では、どのように伝えれば生徒が興味をもち、主體的に学ぶことができるのかを考えながら試行錯誤を重ねました。思うようにいかず悩むこともありましたが、先生方から温かいご指導をいただき、多くのことを学ぶことができました。また、体育大会や部活動など授業以外の場面でも生徒と関わる機会があり、学校生活を支える教員の役割の大きさや、生徒一人ひとりに寄り添うことの大切さを改めて感じました。さらに、先生方の授業を見学する中で、生徒の理解を深めるための工夫や学級経営の在り方についても多くの学びを得ることができました。母校で実習できたことは私にとって大変貴重な経験となり、教職への思いをより一層強くする機会となりました。最後になりましたが、ご多忙の中ご指導くださった先生方、温かく接してくれた生徒の皆さんに心より感謝申し上げます。

学校概況

二〇二六年度二学期

特別活動の主な結果

陸上競技部

第79回富山県高等学校陸上競技対校選手権大会
女子4×100mR 4位（北信越出場）

33 H 河尻 望杏

34 H 作道 莉奈

23 H 岡崎 佳純

12 H 高木 里桜

女子走幅跳

4位（北信越出場）

34 H 作道 莉奈

女子七種競技

5位 34 H 作道 莉奈

女子ハンマー投

8位 23 H 岡崎 佳純

男子三段跳

5位（北信越出場）

12 H 山本 悠生

剣道部

令和8年度富山県高等学校総合体育大会

剣道競技

男子個人 ベスト16

34 H 谷井 圭

男子団体 ベスト8

34 H 福本 光平

34 H 谷井 圭

23 H 新鞍聡一朗

13 H 関 勇翔

15 H 橋本 実拓

女子バドミントン部

令和7年度富山地区高等学校バドミントン選手権大会

女子ダブルス ベスト4 22 H 伊尾 心音

24 H 澤崎 美希

女子シングルス

ベスト8 22 H 伊尾 心音

令和8年度富山市民体育大会

バドミントン競技

少年の部 3位 22 H 伊尾 心音

ハンドボール部

令和8年度富山県高等学校春季大会

ハンドボール競技

男子の部 第3位

令和8年度富山県高等学校総合体育大会

ハンドボール競技

男子の部 ベスト4

テニス部（女子）

2026年度富山県春季ジュニアテニス選手権大会

大会

16歳以下シングルス 5位

（北信越ジュニアテニス選手権大会出場）

11 H 花崎 心乃

放送・演劇部

第65回富山県高校放送コンテスト（兼第73回NHK杯全国高校放送コンテスト富山県予選）

テレビドキュメント部門

優秀賞 第2位 31 H 三浦 結比

（第73回NHK杯

全国高校放送コンテスト本選出場）

ラジオドラマ部門

優秀賞第2位

23 H 山崎 希実

（第73回NHK杯

全国高校放送コンテスト本選出場）

ラジオドキュメント部門

優良賞

22 H 上野 綾香

25 H 大塚 結

ソフトボール部

令和8年度富山県高等学校春季大会

3位

令和8年度富山県高等学校総合体育大会

3位

（令和8年度北信越高等学校総合体育大会出場）

31 H 小林明日香

31 H 竹島 果穂

31 H 土地真奈歌

33 H 佐伯 実優

21 H 牧野珠々子

23 H 清水 咲良

11 H 近藤 未空

14 H 飴井 千紗

15 H 田中舞夕里

書道部

第62回創玄書道会主催全国学生書道展

東京都教育委員会賞

学年優秀賞

創玄書道会奨励賞

第77回毎日書道展 U23

入選

33 H 藤木 舞

31 H 尾島 優里

32 H 堀江 莉来

31 H 大石 紗良

お知らせ

40年目の呉籠絆会誕生

呉羽高校第一期生バスケットボール部主将西田謙志です。

令和7年2月22日にバスケット部男女のOBOG会（呉籠絆会）を発足しました。

今までは個人的に卒業後応援をしてきましたが、個人では出来ない事を何かないかと3期生主将中田守之氏と話し合い、まずは5期生まで集め提案したところ、賛同をいただき立ち上げる事ができました。

会則や会費のない純粹に応援したいと思うメンバーで、ラインを使い近況報告とかしております。会としての応援内容は、毎年男女に試合球をネーム入りで贈ることから始めました。

今年は男子ですが、横断幕を贈る事ができました。

今は5期までですが、直近の卒業生まで広げるのが目標です。

発足するの40年かかりましたが、末永く続くよう頑張りたいです。



富山県ふるさと母校応援プロジェクト(学校指定寄附)について(ご案内)

富山県の県立学校では、魅力ある学校づくりに向け、学校独自の特色ある取組を充実させるために、令和4年度から、ふるさと納税を活用して、各学校を応援いただける寄附制度「富山県ふるさと母校応援プロジェクト」を創設しました。

どなたでも、母校や地域の学校など応援したい学校を指定してご寄附いただけます。

本校では、以下の事業に対しご寄附を賜ります。

- (1) 県下で唯一の音楽コース応援事業 (2) 教育活動応援事業 (3) 部活動もがんばっています応援事業

皆様の応援を心よりお待ちしております。

詳細については、本校ホームページ又は富山県ホームページよりご確認ください。

- ・富山県立呉羽高等学校 (<http://www.kureha-h.tym.ed.jp>)
- ・富山県／富山県ふるさと母校応援プロジェクトについて ([pref.toyama.jp](http://www.pref.toyama.jp))
- (<http://www.pref.toyama.jp/3000/hurusatobokou.html>)



呉羽高等学校 フィルハーモニー管弦楽団 第42回 定期演奏会



客演【トランペット奏者】
古田 俊博氏
(後援学園音楽大学教授)
(本校音楽コース・管弦楽部OB 第3期生)

管弦楽 演奏会

チャイコフスキー作曲：スラヴ行進曲 変ロ短調 作品31

ハイドン作曲：トランペット協奏曲 Hob.VIc:1

客演 古田 俊博氏(協奏曲ソリスト)

チャイコフスキー作曲：バレエ音楽「白鳥の湖」 作品20より 抜粋

指揮：稲場 一朗
渡辺 洋輔

2026. 8. 11 (火祝) 14:20開場 15:00開演
【招待券・招待状をお持ちの方のみ】
8. 12 (水) 17:20開場 18:00開演【2日券をお持ちの方】
8. 13 (木) 17:20開場 18:00開演【3日券をお持ちの方】

富山県芸術文化ホール(オーバード・ホール) 中ホール

入場料 前売り1,000円
当日券1,300円
主 富山県立呉羽高等学校
後 富山県・富山市
富山県立呉羽高等学校同窓会
富山県オーケストラ連盟
リベアークス・イン・スズホ
協 賛 北日本放送・北日本新聞社

【お問い合わせ】富山県立呉羽高等学校 富山県呉羽町2070-5 TEL076-436-1026

富山県立 呉羽高等学校音楽部

第6回

定期 オペラ公演

モーツァルト作曲

「魔笛」

Die Zauberflöte,
(ハイライト)

PROGRAM

第1部 ビアノデオ

サン・サーンス作曲

動物の謝肉祭(2台ピアノ)より

第1曲 「序奏と星々たるライオンの行進」

第3曲 「らば」

第4曲 「鳥」

第7曲 「水族館」

第11曲 「ピアノリスト」

第12曲 「化石」

第13曲 「白鳥」

第14曲 「フィナーレ」

第2部 オペラ

モーツァルト 作曲

オペラ「魔笛」(ハイライト)

2026年

8/23日 【開 場】13:00
【開 演】13:30

【全 場】

富山県教育文化会館ホール

入場料:1,000円

【チケット取扱い】富山県立呉羽高等学校事務室、ミヤコ楽器

【お問い合わせ】富山県立呉羽高等学校(富山県呉羽町2070-5 TEL076-436-1056)

主 富山県立呉羽高等学校 後 富山県・公益財団法人富山県文化振興財団、公益財団法人富山県民文化事業団、北日本新聞社株式会社ケーブルテレビ富山、富山エフエム放送株式会社

第43回 6月12日(金) 体育大会成績

総合優勝	緑鷲団	次勝	赤鳳団
競技部門	優勝 緑鷲団	次勝	赤鳳団
応援部門	優勝 緑鷲団	次勝	青龍団
デコレーション部門	最優秀賞	赤鳳団	
	優秀賞	黄虎団	
	ベストドレッサー賞	青龍団	

